

第3回村山 IS (インキュベーション研究) ワークショップ：
第5回数理地理モデリング研究会
(2016年2月16日火曜日)

香川大学 村山 聡

【日時】2016年2月16日(火) 午後1時より午後5時まで

【場所】総合地球環境学研究所(京都)「セミナー室5」

【趣旨】村山 IS 研究プロジェクトは、総合地球環境学研究所において、2015年度より「近世と前近代におけるヒトと自然の分岐を解明する数理地理モデリング」と題した研究プロジェクトとして出発しました。その後、第1回村山 IS 研究会(2015年7月25日)、さらに京都で開催された第17回世界経済史会議を機に、イタリア、スイス、スロベニアの研究グループとワークショップを2回(2015年8月4日、6日)開催し、さらに第1回巡検・ワークショップ(2015年8月14-15日)および第2回巡検・ワークショップ(2015年12月22-23日)、第2回村山 IS 研究会(2016年2月2-4日)と研究会を重ねてきました。

これらの研究会での研究成果を受けて、Living Spaces and the Population: Local Narratives, Regional Clusters, and Communal Movements (「ヒト・自然・地域のネットワーク再構築—ナラティブとアクションリサーチをつなぐ数理地理モデリング—)」と研究タイトルを改題し、略称として、「Living Spaces Project」(「どこにすむ？」プロジェクト)を掲げ、新たな模索を続けています。

そこで今回は、2月2日から4日にかけて開催した第2回村山 IS 研究会を受けて、特に数理地理モデリングと GIS に関するワークショップを開催します。

「Living Spaces Project」と題したこの研究プロジェクトでは、Group A: ナラティブチェック研究、Group B: 生態経済経営史・アクションリサーチ、Group C: 数理地理モデリング・地誌・GIS 研究の三つのグループから構成されており、今回は、Group C の分科会になります。

今回は、愛知県立大学の服部亜由未氏、名古屋大学の溝口常俊氏に名大グループの長年の研究成果と現状そしてさらに粘菌のネットワーク研究で著名な北海道大学の中垣俊之氏にご報告を頂きます。本研究プロジェクトで推進している数理地理モデリングとの接合そして新たな研究の可能性を追求したいと思います。

興味ご関心のある方々に広くご出席をお願い致します。

【日程】2月16日火曜日、午後1時から午後5時：

- 司会：村山聡(香川大学)
- 13:00-13:30: 趣旨説明(香川大学・村山聡)
- 13:30-15:00: Part 1: GIS 分析を考える
報告1: 服部亜由未(愛知県立大学)「明治初期の地誌分析に向けた町村域 GIS データ作成—長野県を事例に一」
報告2: 溝口常俊(名古屋大学)「GIS による近世隠岐の村落景観」
- 15:00-15:30 (休憩)
- 15:30-16:30: Part 2: 地域ネットワークを考える
報告3: 中垣俊之(北海道大学)「原生生物の離合集散から見た街と道の共発展」
- 16:30-17:00: Part 3: ディスカッション
ディスカッサント: 青木高明(香川大学)